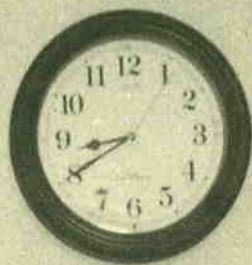
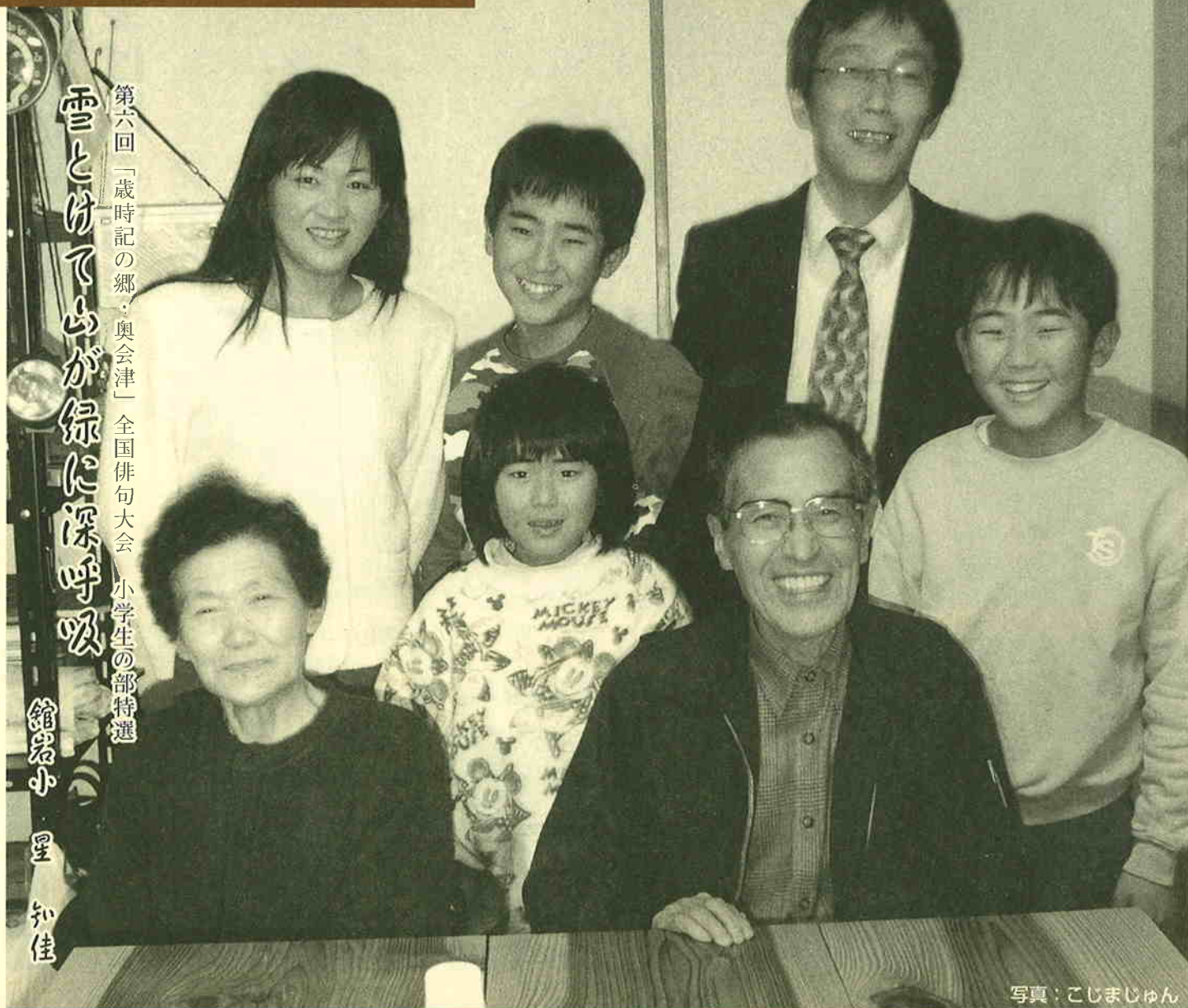


奥会津 だより

2002年春
第11号



万歳!! 大家族



写真：こじまじゅん

第六回「歳時記の郷・奥会津」全国俳句大会 小学生の部特選
雪とけて山が緑に深呼吸

館岩小 星 知佳

「只見川電源流域 振興協議会の歴史」⑥

前回に引き続き交流事業を
ご紹介します。

奥会津の9町村が連携して
交流を行っている事業は他に
「カヌー・ラフティング事業」
「フォトコンテスト」「俳句大
会」があります。これら事業
では、地元の人々が積極的に
カヌーインストラクターを目
指したり、撮影ツアーに地元
写真愛好家がスタッフとして
参加するなど、地域住民と共
に行う交流事業になりつつあ
ります。中でも「俳句大会」
では投句数が5、860を数
え、定着した奥会津のイベン
トになりました。

このように協議会第二期事
業では、交流の基盤となる奥
会津9町村の「連携」と地域
住民の「参加」が確実にアッ
プしてきています。

上の写真をご覧下さい。三
代四代が同居する大家族は、
地域の生活・文化の継承に欠
かせないものです。奥会津
の元氣な自然の中に暮らす元
氣な大家族。こんな姿を思い
描いて、今号から「大家族」
をテーマに表紙写真を掲載し
ます。お楽しみに！

受け継ぐ宝、受け取る宝

総合学習を始めてから三年目になります。一年目は地域の民話や民具、歴史を調べました。二年目は地域に向けての情報発信とボランティアの二本柱で。そして今年にはボランティアに大きなウエイトをかけたと思っています。

私は、子供たちとお年寄りをもっと親しく話したり、活動したりできる雰囲気が大切だなあと思っています。なんてお年寄りは「雪国のくらしの達人」だし、「歴史の生き証人」でもあるわけだから。地域を思う心づくりはここか

ら始めるのがいいかなあって思いますね。そこで、お年寄りと子供たちを結びつけるパイプが必要になってくるんですが、このパイプに「ボランティア」がなりうると思っています。

ボランティアは「やってやる」のではなくて他人のために何かをすることで自分の心を豊かにする、いわば「自分の心を耕す作業」なんだと思うんです。いつもしてもらってばかりの子供たちが、逆に自分たちがどんなことをしたら地域の人々から喜ばれる



か一生懸命考え、実行し、また、より役立つためにはどうしたらよいかを考える。そうしたことを繰り返し返して行くことで、次第に本来のボランティアに近づける。そして子供たちの口から「じいちゃんってすげーなあ。こんなことができるんだ、知ってるんだ」という言葉が飛び出したり、じいちゃんやばあちゃんたちも、記憶の蔵にしまい込

んでいた、ほこりをかぶった本物の知恵を取り出して、磨きをかけて子供たちの前に、微笑みと一緒に「ほうら見てみる」と差し出してくれる。子供たちの驚きに満ちたまあるいなぐ(瞳)がじいちゃんやばあちゃんを見上げる。じいちゃんやばあちゃんは記憶の蔵の価値に気づき、一生懸命蔵から宝物を取り出してくる。ちよつと誇らしげに。

お年寄りが自信を持てば、地域の子供たちやそれを取り巻く大人たちへも反映されま

子供たちの記憶の蔵にはこれまで運び込まれたファミコンやCD、テレビのアニメなどの隣に、そつと「黒光りした本物の知恵」が並べられる。...

そんなことを夢見つつお年寄りの方々の力をお借りできたらいいなと思っています。

鈴木 克彦

(只見町・只見町立朝日中学校教諭)

金山ウォーク

雪山ハイキング

3月24日、前夜に降った春の雪は30センチも積もり、新雪を踏んでの雪山ハイキングとなりました。金山町の大岐を9時にスタート。松坂峠越えをして只見町の布沢に11時30分に到着。晴天に恵まれた3時間半の雪山ハイイクは、スノーシューに慣れない方も快適に歩を進め、60名を越える参加者に一人の落伍者もなく目的地に到着しました。雑木の間を縫って歩く松坂峠ではカモシカに遭遇。布沢では折りしも布沢祭りの最中で、温かいトン汁などが振舞われ、思いがけない交流も生まれました。

【主催】只見川電源流域振興協議会

日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト

松坂峠

金山町・大岐から、只見町・布沢へ抜ける6キロほどの峠で、頂上の標高は598メートル。往來が盛んだった近世には、伊南川流域から横田村への近道で、銀山街道といわれていました。またこの峠は、天正17年(1589)草名氏を滅ぼした伊達軍と山内氏勝が戦った古戦場です。

第6回

フォトコンテスト授賞式

2月24日、只見町、季の郷・湯ら里で第6回フォトコンテストの授賞式が行われました。グランプリを受賞した佐藤美智子さんはじめ多数の受賞者は、表彰式のあとの懇親会で喜びの歓談。竹内敏信先生や諸先生の作品が副賞として贈られました。



写真・新雪の松坂峠山頂付近を歩く



グランプリ受賞作品「霧の中で」佐藤美智子

宝物って何？

「昨年からは奥会津だよりに連載しているこの奥会津の自然シリーズも今回で9回目となりました。連載当初にお知らせしたように、只見川電源流域振興協議会では平成12年度から3カ年計画で「奥会津自然再発見プロジェクト」をすすめており、この連載もその成果を随時、地域の皆さんにお知らせしていきこうと始めたものです。そして、このたび、主に平成12年度と平成13年度の調査結果に基づいて作成した「奥会津自然再発見!! フィールド図鑑Ⅰ」を発売することとなりましたので、ご報告いたします。

●「フィールド図鑑Ⅰ」の発行迫る!

この冊子は、奥会津だよりでもご紹介してきたように、奥会津に住む皆さんの身の周りにある自然の『宝物』に着目し、その価値を地域に暮らす皆さんにもう一度再発見していただくためにつくったものです。「フィールド図鑑Ⅰ」というタイトルのとおり、フィールドに持ち出していただくことを想定してコンパクトなサイズにしております。

今回、「フィールド図鑑Ⅰ」で取り上げたのは、雪、山、水、魚、森、鳥、蝶の七つの『宝物』です。これらの宝物の価値や魅力を様々な角度から掘り起こしてみました。ご一読いただき、できれば、この冊子をとってすばらしい自然のフィールドに出てみてください。そして、ご自分の目や耳で、確かめてみてください。そうすればきっと、奥会津の自然がもっと好きになることでしょう。そして、今まで気付かなかった新しい発見が必ずあるはずです。

地域に暮らす人々が、地域に誇りと愛情をもちつづけることが、将来の奥会津の持続的な振興と活性化にとって、最も重要な鍵であり、近道であることを、少しでも多くの方々実感していただきたいと思っています。「フィールド図鑑Ⅰ」は既に印刷工程に入ってお



写真・フィールド図鑑Ⅰ

株プレック研究所 松井孝子

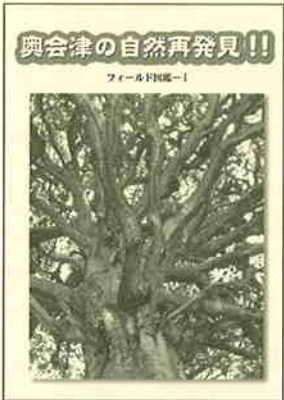
りますので、皆さんのお手元にお届けできるのも間近です。さらに次年度は、地域の皆さんと自然の『宝物』についてお話しする機会や、一緒にフィールドに出て行く機会をもっともりたいと考えています。そんな時にこの冊子が少しでも役立ってくれるのではないかと期待しています。また、次年度も引き続き『フィールド図鑑Ⅱ』の発行を予定しています。奥会津の豊富な『宝物』を、この小さな冊子の中に凝縮しきれぬものではありませんが、皆さんが奥会津の自然のすばらしさに、改めて気付くきっかけになれば幸いです。

協議会 発刊冊子

● 景観ガイドライン
只見川電源流域振興協議会編



● 奥会津の自然再発見!
フィールド図鑑Ⅰ



● 尾瀬街道宿めぐり
歳時記の郷・奥会津を歩く



『景観ガイドライン』、『フィールド図鑑Ⅰ』は各戸配布されますが、『尾瀬街道めぐり』については、ご希望の方は協議会事務局までご連絡ください。無料(送料別)でお分けいたします。

トピックス 奥会津世話人 登場!

新保 秀幸さん (南郷村)



私が南郷村に戻り、南会津の自然に触れてから十七年

の月日が流れました。この間、いつも何処に行っても、「村おこし」という言葉を耳にしてきました。去年からは奥会津研究会の相談役ということで、本気でこのことについて考え出してみました。が、本年、観光の中心の京都・奈良に行ってみてびっくり致しました。確かに、観光名所・神社仏閣に人は引かれるのですが、さらにびっくりさせられたのは、朝、観光名所などの近くの方々が、各々「ほうき」と「ちり取り」を持って掃除されている姿でした。別に、集まって始めるのでもなく、当たり前前にきれいにしている姿でした。

自治体に頼ってばかりいるのではなく、一人一人が自分のできることは何かと考え、この素晴らしい自然を守るのも立派な村おこしだと考えます。

求められる地域教育

「教育と農業は同根」である



教育診断研究所主宰（昭和村）
教育施設でらこや塾頭（田島町）

橋本貞夫

「教育と農業は同根」である。地域に根ざした中山間部の教育を考えると、「人間の育成も、作物の生育過程も「根っこ」が同じようにあり、どちらも大事である」という意味からである。

「土と仲良く触れ合っていく子どもは健全に育つ」。以前の様に「泥まみれで遊ぶ姿」がもつとあってもよいのではないか。「なぜ子どもに土との接触が必要なのか」である。「命あるものは

どれもみんな土に関係がある」からだ。私たちの食生活をみて

もすべて命あるものを口から食べている。生命あるものは口から恩恵を取り入れている。生命ある物で土と関係無い物は考えられない。穀物も野菜、果物も、草や雑穀を食べている動物の肉も土と関係がある。「命あるものは土から生まれ、そして土にかえる」のである。農業は「土の力、土の手助け」これなしに、人間が単独で営むことはできない。みんなの協力、手をとって力を出し合って、土と緊密

に結び付いていくのである。

子どもも大人も汗を流して草取りし、耕す事から始まる。手塩にかけた作物を共に分け合い、収穫物への感謝の気持ち、共に食して味わう喜びは体験者しか味わえない。今は農山村の大家族制が失われ、大規模な農業機械が導入された所もある。が、異世代同居家族で小規模農業を営んでいる所では、昔ながらの伝統的精神文化が残っている。日本は農耕民族、瑞穂（みずほ）の国であった。江戸時代の寺子屋、明治時代に全国津々

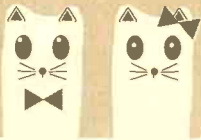
浦々に出来た小学校、質の高い精神文化教育が続いた。が、戦後60数年の間に精神的支柱を失い、流れが変化した。その歪みが今日の精神的な荒れを生み出したのである。

人間は「受け継ぐものを自ら受け継ぎ、それを後世に伝え残すこと」が、教育の変わらぬテーマである。自我欲でモノ・カネに精神を奪われ過ぎたため荒廃が今日化した。親・先代から受け継ぐ無形のもの、これを自分が子孫後世に心でどう伝え残すかである。

「教・農・同根」と「教育の永遠のテーマ」とは、この点でも共通するところである。

<檜枝岐村>

おこじよ く・ら・ぶ



小中学校の週5日制にともなう、土・日に地域内の子供たちの活動を活発にしよと、ウィークエンドサークルとして発足したのが四年前。その後、檜枝岐のマスコット「おこじよ」にあやかって「おこじよクラブ」と命名した。

小学校1年生から中学校3年生まで、会員は約60名。教育委員会の青少年育成の一環として活発に活動している。

スポーツやボランティアまで活動内容は多彩だ。ミニ尾瀬公園の草むしりや花植え、尾瀬のゴミ拾い等のほかに、檜枝岐川のゴミ拾いでは清流事業の一翼を担うなど、積極的に地域内の活動を展開している。

今後は、老人クラブ等と一緒に、老人クラブ等と一緒に、世代間交流を深めていこうとしている。



いべんと告知板

《奥会津を歩こう》
2002シリーズ

第2回
会津高原しらかばツアー
デーウォーク

芽吹きはじめた白樺の高原と春の山野を歩きましょう！

日時 5月18日(土)・19日(日)
コース 5km、10km、20km
【参加費】

一般：1000円
(高校生以下500円)
村内：500円
(高校生以下無料)

【問い合わせ先】
会津高原しらかばツアー
ウォーク実行委員会
☎0241(78)2546

第2回
歴史と文化のやないづ
ウォーク

春の只見川のほとりに歴史と文化を訪ね歩きます。

日時 5月26日(日)
コース 7km、10km
【参加費】 無料

【問い合わせ先】
歴史と文化のやないづウォーク実行委員会
☎0241(42)2114